

第7回 刀根山病院二次救命処置コース（ICLSコース）の報告

平成23年3月6日に、ICLSコースを開催しました。

「心停止時における最初の10分間の救急処置を学ぶ」という趣旨で、ICLSコースが、全国各施設で開催されており、当院では7回目になります。ICLSコースとは、医療従事者全体を対象としたトレーニングコースで、国際的なコンセンサスに基づいて、日本救急医療財団が作製したガイドラインにのっとり行われているものです。いつ、どこのコースを受講しても、標準化された一定レベルの蘇生術が身につけられるもので、救急医学会の受講証が、認定ディレクターから受け渡されます。

今回のコースディレクターは、市立豊中病院の救急科の東孝次先生にいただきました。

第1、第2会議室を会場とし、会議室を控室として使用しました。休憩時間や昼食時には、エレベーター前ホールなどを利用して、リラックスしてもらうようにしました。

受講者は12名で、6人ずつの2グループに分かれて実習しました。院内受講者は8名で、その内訳は、看護師7名、放射線技師1名でした。院外受講者は、公募の結果、奈良県の医学部学生1名、京都府の研修医1名、和歌山県の薬剤師1名、兵庫県の勤務医1名と、遠くから熱心な方が来てくれました。

インストラクターは、コースディレクターの他に19名であり、職種は、救急救命士1名、看護師10名、医師3名、放射線技師4名でした。

9時30分にスタートし、DVDを見ては蘇生人形で実習する形で、一斉にBLS（Basic Life Support）を学び、正しい胸骨圧迫や人工呼吸、AEDの使用法を習得しました。ひきつづき、器具を使用した気道確保や、電気ショックの必要性の判断と実施法を学びました。ここで昼食休憩をとったあと、いろいろな蘇生場面を想定したシナリオにもとづき、チームで蘇生にあたる練習を繰り返し行いました。

受講者のモチベーションは高く、インストラクターも熱心であり、救急処置について、「楽しく学ぶ」ことができたようです。また、院内の見学者も8名あり、救急蘇生教育の需要は高いと思われました。今後は、院内での周知につとめ、医師や、検査技師、理学療法士の参加者が増えるように、働きかけたいと思います。

今後も年1~2回のペースで開催していく予定です。